

食について考える - あなたは何を選びますか? ~食にこだわる業界人のインタビュー満載~

## 遺伝子組換え食品に迫る

近年、世界中で注目されている遺伝子組換え(GM< Genetically Modified >)食品の実態について、現在 GM 作物反対キャンペーンを行なっている、WA 州環境保全協会 (Conservation Council of Western Australia) の Maggie Liliith さんにお話を伺いました。



### 遺伝子組換え(GM)作物とは?

作物や動物の遺伝子を人工的に操作し、特定の除草剤で枯れない、害虫に強いなど、用途に合う新しい品種として作られた作物。新しい遺伝子を対象となる生物に注入したり、逆に用途に反する働きをする遺伝子を除去する。海外では GMO (Genetically Modified Organisms) または GE (Genetically Engineered) と呼ばれている。

—— WA 州では、2008 年まで GM 作物の商業目的での栽培が禁止されています。私たちはこの期間を 10 年延長することを目標に今年の 3 月下旬に活動を始め、現在既に 25,000 人の署名を得ています (5 月 31 日現在)。話す時間も無く用紙を置いてただけなのに、すぐにサインしてくれる人も多いです。

—— GM 食品は臨床実験もまだ十分ではなく、安全の面でかなり疑問があります。GM 作物が市場に出回って 10 年になるアメリカでは乳がんが増えているという報告がありますが、人体を使ったテストはできないので関連性についてはわかっていません。昨日何を食べたか質問しても、その中に何が入っていたかまではわからないですからね。チョコレートの中に GM の大豆や油などが使われている

可能性もあるわけですが、現状ではラベルに記載されていないので避けることは難しいです。特定の殺虫剤で枯れてしまわないように遺伝子を組換えられた作物は、独自の毒素を生み出します。私たちはその毒素を含んだ食品を食べるわけですね。GM 食品を扱う企業は「テストをしたので安全です」と言いますが、長期的な安全性は確認されていません。10 年後に、アメリカでどんなことが起きているか見てみる必要がありますね。以前、GM ナタネを作ることに意欲的な生産者と話をしましたが、彼は、GM 作物を作らないと将来的に損をするのでは、と心配していました。私たち消費者が「GM 食品は要らない」と言えば、生産者に GM 作物の需要がないことが伝わり、それは政府まで届くと思います。

—— 他にも GM には解決されていない問題がたくさんあります。例えば、GM 作物を栽培している畑からその作物の種が飛んで来たら、普通の作物を育てている畑もその遺伝子に汚染されてしまう。これが二次汚染と呼ばれるものです。責任は誰が負っていくのかが問題ですね。野菜に付着した農薬は水で洗えばある程度取り除けますが、GM 食品はどうすることもできません。遺伝子は調理や消化のプロセスで消えると言う人もいますが、私はそうは思いません。高温殺菌された牛乳にも遺伝子は残っていますから。また、「私たちはいつか死ぬんだから関係ない」と言う人も中にはいますが、体に悪いものを食べ続ければ気分が悪くなったり、病気になる。そうなれば、人生の質 (クオリティ・オブ・ライフ) はどうなってしまうのでしょうか。GM 食品は、絶対に問題がないという保証がされるまで、私たちの生活に取り入れるべきではないと思います。



WA 州環境保全協会  
塩害・農業渉外担当  
Maggie Liliith さん

## GM 作物反対キャンペーン「Say No to GMO」

WA 州では、2003 年に商業用 GM 作物の栽培禁止区域を定める法案を州議事会に提出、2004 年 3 月に州全域 (試験栽培の場合を除く) を 2008 年まで禁止区域にするというモラトリウム (一時停止措置) が決定された。現在 WA 州では、WA 州環境保全協会が中心となった活動団体が、このモラトリウムをもう 10 年間延長させることを目標に、情報提供を通じて市民に GM 作物に関する正しい知識を持つよう呼びかけたり、30,000 人を目標とした署名活動、政府との交渉などを行っている。署名は、ウェブサイトからも可能。www.no-gmo.asn.au



キャンペーンに使われている署名用紙